

登録コード	E2740900	開講年度	2026		
授業科目	栽培基礎			担当教員	加藤 秀一
英文授業名	Agronomy and Crop Cultivation			副担当	川久保 英樹
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限～5時限前半
講義室	教育泉会館1号室		授業形態	講義・実技	遠隔授業科目
				備考	
信大コンピテンシー	非該当				
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ				
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観			⇔	中学校「技術科」の授業で行う作物栽培で利用しそうな作物各種の播種から育苗・成長管理を通して収穫までの過程で必要な知識と技術を身につけ、自ら栽培できるようになる。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能			⇔	信州の自然の中で栽培できる作物の栽培上の特性と収穫後にそれらを利用する食文化について理解し、自らの生活の中でそれらを栽培し食生活の中で活用できるようになる。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他				
(3)全学横断特別教育プログラム					
(4)授業の概要	ジャガイモ・キュウリ・ナス・トマト・ピーマン・サツマイモなどの苗を除草や施肥を行いながら育て、収穫まで行う。期間中、畑の管理に必要な「畑起こし」や「マルチ張り」などの作業も行い、耕作地を一年中無駄なく利用する作物栽培について考える。				
(5)授業計画	第 1 回：ガイダンス。期末までの栽培プランの確定と準備する道具や服装について説明する。 第 2 回：ジャガイモの植え付け。エンドウネット張り。 第 3 回：各作物のマルチ張り、花の播種作業。 第 4 回：ナス・キュウリ・ピーマン・トマトの支柱立てと植え付け。 第 5 回：サツマイモと花の植え付け準備。畝たて。 第 6 回：サツマイモと花の植え付け。ジャガイモ土寄せ。 第 7 回：水稻定植。なす・ピーマン支柱たて。 第 8 回：タマネギとニンニク掘り。収穫作業。 第 9 回：タマネギとニンニクの跡地片付け。耕耘機操作。 第10 回：トマト・ナスの芽摘み、除草、追肥作業。 第11 回：果菜等の芽摘み、除草、追肥、収穫作業。堆肥作り。 第12 回：果菜等の芽摘み、除草、追肥、収穫作業。ジャガイモ収量調査。 第13 回：ジャガイモ掘り。各作物の収穫作業。 第14 回：ジャガイモの選別。サツマイモつる返し。作物の収穫。授業アンケート。 収穫した作物を使つての調理。試食。作業ノートの提出。				
(6)成績評価の方法	・「作物栽培学」の基礎的項目の理解度をはかる「各種作物の手入れ作業及びその作業態度とその作業のでき具合」（6 0 %）と、将来一人で「それぞれの地域にあった作物を栽培するための季節ごとの作業手順」をまとめる事ができたかどうかを測る「作業ノート」の出来栄（4 0 %）で判定する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。				
(7)成績評価の基準	・毎回の授業の最後に各自の作業結果を点検し、それぞれの作業が（１）「目的通りになされ、作業が完全で目的に付随した他の作業までなされている」、（２）「目的通り作業が進められていて、作業が完全で丁寧になされている」、（３）「目的通り作業が進められていて、作業が完全になされている」、（４）「目的通り作業が進められているが、作業の完成までに やや時間を要したし」の４項目で以下のように評価する。（１）ならば「卓越している」、（２）ならば、「かなり上にある」、（３）ならば、「やや上にある」、（４）ならば、「水準にある」とする。 授業の最後に提出する「作業ノート」は、「栽培した作物の栽培方法や収穫方法及びその調理法などが作業表やレシピのような形でまとめられていて、それぞれの作物を他の地域で栽培 する際の地域特性についてもまとめられている」といった観点から、それぞれの項目の内容の記述の正確さや、表現（作業表のような図表）の適切性で判断し、すべての項目にわたり授 業で説明したり作業したりしたことが適切に記述され、予習・復習で調べたことも記述されていれば、「卓越している」、一部の表現にややあいまいさがあるが、上記の項目が満たされていれば、「かなり上にある」、上記の項目をすべて満たしているが、図表などの表現に改良の余地がある場合は、「やや上にある」、上記の項目を満たしているものの、予習・復習で の調査やまとめに改善の余地がある場合は、「水準にある」とする。				
(8)事前事後学習の内容	・この授業科目は、30時間以上の時間外学習が必要となる。 ・毎回の授業の最後に次回の作業予定を説明するので、その作業の意味や方法の詳細について調べて「作業ノート」に記述してきた上で、次回の授業に臨んでいく。 栽培作業は、授業時だけの作業では作物がうまく育たないので、「水やり」、「除草」、「施肥」、「消毒」などの農作業を授業日でない日にも適宜行う。そうした作業を滞りなく行う ことで、次回の授業での作業がはかどり、作業効率も上がる。				
(9)履修上の注意	・毎回農作業を行うので、軍手・長靴・作業着を用意すること。農作業では、鍬・鎌をはじめとした刃物を扱うので、作 業中、他の受講生にけがなどをさせることのないように、周囲への配慮を常に行う。雨天でも作業を行うことがあるの で、雨具も用意しておく。 「栽培した作物の栽培方法や収穫方法及びその調理法などを身につける授業」のため、「作業ノート」に作業の意味 や注意点などを毎回の授業及び予習・復習時に記録していく必要がある。そして、最後の授業時にそのノートを提出してもらうので、この授業専用のノートを作り、それを「作業ノート」とする。 欠席回数が4回以上の場合、				

(9)履修上の注意	単位の認定は致しません。
(10)質問，相談への対応及び連絡先	・ものづくり・技術教育コース 川久保先生にご連絡してください. ・オフィスアワー：W215室 在室のときはいつでも ※来客中は除く ・授業担当者の連絡先：kawa-h@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	・指定しない。必要な情報は毎回の授業で印刷物として提供する。
【参考文献】	・農学基礎セミナー新版野菜栽培の基礎 農文協 1900円